

江戸時代の中期頃、一庶民の旅」がさかんになると、伊勢原にある大山阿夫利神社に参詣する大山詣りが爆発的な人気を博した。雨乞いや商売繁盛の神様への信仰から、江戸の人口が100万人程度だった頃に年間20万人の人々が行きかたといわれている。特に江戸・赤坂御門（現在の赤坂見附駅付近）を起点として今の国道246号や世田谷通りをたどり伊勢原を目指すルートは、途中の宿場や茶屋も栄え、多くの人と物資が交わる重要な道となつた。この道が大山街道である。

# 上町を歩けば、江戸が見える ——大山街道と、今に残る旅の面影——

ではなぜ大山詣りが爆發的な人気を博したのか？  
彼らが目指した大山阿夫利神社は「あめふり」神社である。すなわち、相模湾から吹く海風が陸地で大山にあたり雨雲を作り江戸に雨を降らせることから、大山にある大山阿夫利神社はあめふり祈願の神社だつた。農家にとって雨は恵みの雨だつたことは想像できるが、このブームの一端は今も昔も変わらぬ「推活」が関係している。  
火事と喧嘩は江戸の華粹」と「勇ましさ」を併せもつ火消しの容姿や振る舞いなんて言われた時代。

おわりに――上町を通り  
大山街道は、ただの道ではない。旅と信仰と日常が交差した「生きている文化遺産」だ。ゆっくりと歩いてみれば、石の道標や風変わりな曲がり角、祠の跡、静かな銅像の目線の中に、江戸の人々の息吹を感じることができる。  
是非あなたも散歩がてら大山街道をたどってみて欲しい。かつての旅人たちが見上げた空は、今も私たちの頭上に広がっている。その足元に眠るもうひとつの江戸を感じられるはずだ。大山街道を

## 【大山道クイズ】

Q. 江戸時代の「大山講」<sup>こう</sup>とは何を目的とした集まりでしょうか？

- ① 豆腐料理の研究と普及を目的とした料理同好会
  - ② 大山<sup>まい</sup>詣りを共同で行うために組織された信仰団体
  - ③ 江戸城の防災祈願を担う幕府公認の神職ネットワーク

歩くときはぜひ耳を澄ましてみてほしい。あなたの足元にも、江戸の旅人たちの足音が、静かに響いているかもしれない。

A standard black and white QR code located in the top right corner of the page, which links to the meeting details.

# 大山道を歩こう

上町地区の大山道です。  
地図の番号の場所は、  
松丘町会HP内の動画で  
紹介しています。



世田谷大山道マップ（平成23年3月発行）を基に作成



▲世田谷  
大山道マップ

第130号  
発行日 令和7年12月1日  
発行 事務局  
文化部会  
上町まちづくりセンター  
身近なまちづくり推進協議会  
03-5477-7920



ふれあいひろばHP



## さあ今年もボロ市開催します！ボロ市へどうぞ！

1578年安土桃山時代から始まり今年で448年目となる、東京都指定無形民族文化財のボロ市。世田谷区民にとって夏の風物詩ホタル祭りとサギ草市と併せて冬の大きな風物詩です。コロナ禍のあと来場者数も年々増加し、令和6年度（2024年12月と、2025年1月）は約65万人が来場され大きな冬のイベントとなっています。

地元の人たち以外にも他府県や、インバウンドを含む外国人の方の増加も目立つようになりました。この伝統行事は年々進化しています。昨年はNHKの全国番組「ブラタモリ」や民放「出没！アド街ック天国」での紹介など、メディアによる紹介番組で認知、知名度が大幅にアップしました。

インバウンドの外国人の方は、通常のガイドブックからではなく、独自のSNSネットワークから情報を入手されるそうです。日本のお宝探しや文化が好きで、代官屋敷、代官餅、ヴィンテージTシャツ、品数の多い古着、古布「BORO」、食器などにも興味を持っておられる方も多いです。日本人とは違った固定観念に捉われない古い食器の使い方が面白いです。今後もボロ市の伝統を受

**表面のクイズの答え…②大山詣りを共同で行うために組織された信仰団体**  
【解説】  
「大山講」とは、大山阿夫利神社への参拝を目的に、地域や職場などで組織された講=信仰グループです。通常は年1回の大山詣りを目指し、講錢（積立金）を貯めて旅費を捻出しました。衣類、道具、旅程、宿までパッケージ化されていて、信仰、娯楽、温泉、仲間との交流が一体になった「江戸人の年中行事」でした。

## 上町地区イベントカレンダー

令和7年12月6日(土)	上町防災塾	世田谷区立桜小学校
令和7年12月15日(月)・16日(火)	ボロ市	ボロ市通りとその周辺
令和8年1月15日(木)・16日(金)	フードドライブ	上町まちづくりセンター
令和8年1月27日(火)～29日(木)	健康体操教室	上町まちづくりセンター
令和8年2月16日(月)・17日(火)	うたごえひろば	世田谷区立桜小学校
令和8年2月28日(土)	文化部会 主催	サギソウ講習会
令和8年2月		上町まちづくりセンター

発行日現在の予定です。参加申し込み日などは区のおしらせ（毎月25日号）をご覧ください。

▼過去のボロ市の様子



け継いで保存しつつ、他方では海外に向かってPR活動、SNS、インスタ映えを意識した動画投稿にも注力するとより良くなるのではないかでしょうか。なおボロ市の本部では英語、中国語のコミュニケーションが可能なスタッフもいるとのことです。

今後もボロ市保存会、商店街振興組合、町会、地域の方々が一体となってこの伝統行事を更に推進、アップデートしていくとともに、関係先のサポートを頂き、いつも安全・安心なイベントとなることを願っています。（桜町会 T・T）

## 文豪と彫刻家 <1>

文豪 井上靖さんと世界的な彫刻家 舟越保武さん。日本を代表するお二人には、関係があったことをご存じでしたか。私が知る限りでも、三つあったので紹介したいと思います。

一つ目。井上靖さんが執筆された小説『流沙』に舟越保武さんが挿絵を描かれていました。それも、毎日新聞に1977年11月1日から1979年4月10日までの515回、1年5ヶ月強の長きにわたって連載されました。このことを知って、早速、図書館に行って新聞縮刷版を書庫から借り出し、掲載された初日からの二日間、1、2回目の紙面をコピーてきて、拝読しました。紙面の挿絵それには、小説の中でチューリッヒの教会において結婚式をあげることになっている日本人男女と思われる二人それが、湖畔を囲む森の中にいるキリッとした顔立ちの男性とはっきりとした顔立ちの女性とに描かれ

ているように見受けられました。お二人の共同作業が結実して、長きにわたって新聞に連載されたことに、感動を覚えました。昨今では考えられないことです。

二つ目。滋賀県長浜市立高月図書館の2階には、「井上靖記念室」があります。井上靖さんご本人の愛用品、再現された書斎、そして高月町など琵琶湖の湖北の人々との交流記録があるそうです。井上靖さんが昭和43年に出版された小説『星と祭』を、私は以前に読んでいました。小説で、観音の里「高月」にある十一面観音像が多数紹介されていて、これらの仏さまたちが縁となって、記念室を伴う図書館が開設されたということを知りました。このとき、図書館正面の広場には、井上靖さんが高月町に寄せた文学碑『聖韻』と舟越保武さんの美しい女性の彫像作品「茉莉花」が並んだそうです。〈次号に続く〉

（弦巻町会 M・A）

## 弦巻町会 新町会長のごあいさつ

この度は弦巻町会権山前会長の後任として、会長を引き継ぐことになりました、柴崎ヒサ子でございます。権山前会長には、地域・町会のためにご尽力をいただき心より感謝申し上げます。



会長を引き受けるにあたり、大きな責任と緊張を痛感しております。これから活動に向け、今まで多くの先輩方が築いてこられた歴史を受け継ぎ、さらなる発展を目指し、地域の皆さんと共に、安全・安心な住みやすいまちづくりの実現に向け取り組んでまいりたいと思います。微力ではございますが、精一杯頑張ってまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

（弦巻町会 会長 柴崎ヒサ子）

## あとがき

今年も残り1か月となりました。恒例のボロ市も開催されます。ふれあいひろばでは3回にわたってボロ市保存会の活動を取り上げてきました。400年以上の伝統を守りながら、毎年、安全にボロ市が開催されているのは、ボロ市保存会やボランティアの努力があってこそと感じます。最近は海外からの方も多く訪れています。年末年始の風物詩として、これからも永く続くことを願っています。（東町会 K・T）



▲区のおしらせ  
「せたがや」  
バックナンバーHP

## 日赤からのお知らせ

歳末たすけあい・地域支えあい募金を実施しています。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。令和7年12月12日（金）まで受け付けています。

渡村立高 鈴椎小 奥伊網  
邊内石口木谷松本藤  
美敦かほる徹陽惠正美光  
編集委員佳和美登里